

支部情報

光支部

小中一貫教育を

延長線に見据えて

光市では、平成二十四年度から、学力向上と生徒指導の充実をめざして、市内全ての学校で「連携・協働を重視した学校づくり」に取り組んでいる。

校長会では、「まず、できるところから始めよう」を合い言葉に、各学校及び各中学校区において、学校間・校種間連携の強化を学校経営の基軸に据え、コミュニティ・スクールの推進を学校運営の土台として、トピックス的に実践を積み上げてきた。

これからの二年間は、その成果と課題を踏まえ、小中一貫教育を延長線に見据えて、より意図的・計画的に推進する方向で、連携・協働教育の充実期とすることを目的としている。

本市の特長は、その推進組織である光市連携・協働教育推進協議会の組織の中に、小中合同校長部会を設け、自主校長研修会と兼ねて、課題



の解決に向けた情報交換や議論を行っているところにある。また、光市教育開発研究所に設置されている教育実践部会、学校運営部会、教育課程部会の研究内容と有機的に連動しながら、研究と実践を積み重ねていることも挙げられる。

こうした取組の一端は、昨年度の秋季校長研修会の組織・運営部会において報告したところであるが、本年度、既に開催した光市小中合同校長部会での確認事項等を次に紹介する。

一 推進体制の更新と明確化

- (一) テーマ及び重点事項の明確化
- (二) 組織と進行計画の見える化

- (一) 乗り入れ授業、IT、教科担任制の日課表への位置づけ
- (二) 計画的・継続的な合同授業研究

二 研修・授業実践の日常化

- (一) 十五歳の子どもの像の共有化
- (二) 九年間の指導イメージの構築

三 研究内容のイメージ化

- (一) 本年度も市名にちなんで「人も地域も学校も光り輝く」ように、校長会が一丸となって連携・協働の水準の維持・向上をめざして行きたい。

(浅江小学校 吉村誠司)

支部情報

支部情報

山陽小野田支部

校長会の組織力向上を

めざして

山陽小野田市校長会は、平成十七年の旧小野田市と旧山陽町の合併により誕生し、今年度は節目の十周年になる。

小学校十二校、中学校六校（一校のみ校長が小中兼務）、市内の知的障害特別支援学級の集合体である分校（平成二十七年度より、各学校にも知的障害特別支援学級が設置される）が一校（校長兼務）で構成され、小中連携や各学校間のネットワークづくりが進めやす

その後、分かれて行われる小学校だけの研修会では、来年度秋に開催される校長会県大会に向けての提案準備が中心となっている。

平成二十八年度の本市小学校長会の提案は、第九分科会「社会形成能力」である。「社会形成能力とは何か」という共通理解から始まって、現在スタート地点に着いたところである。今後は、テーマや研究の視点について決めていく予定である。

「社会形成能力」は、コミュニティ・スクール、地域協育ネット、キャリア教育、コミュニケーション能力等がキーワードになることは、校長会で共通認識できており、今後、各学校の実践を持ち寄り、骨子を固め、山陽小野田市の特色のある提案ができるように全力で取り組む計画である。

支部校長会が、共通テーマの下に、一致団結して創り上げていく過程を通して、校長会の組織力がさらに高まり、そのことが本市教育活動の全ての充実に繋がるように取り組んでいきたい。



(赤崎小学校 野村一也)